



2017(平成29)年に開催される「^{えがお}愛顔つなぐえひめ国体」。今年度の「みきゃん通信」では、鬼北町で行われる民泊に協力いただく24の民泊協力会の会長から民泊に向けた意気込みなどを聞いていきます(※紹介順は届け出順です)

延川民泊協力会(延川／三島地区)



会長 山口 清志

延川区の部落集会の中で民泊の受け入れについて話したところ、全員賛成。しかし、部落集会には男性が多く、民泊には女性の協力が必要不可欠だと考えた山口会長は、地元の婦人部に相談し、各家庭の女性に協力依頼をしました。無事、女性たちからも気持ちの良い返事をもらうことができ、延川民泊協力会は誕生しました。

三島地区には、延川、小松、そして川上にそれぞれ民泊協力会が設立されています。設立後、互いの近況報告や相談をし合うなど、頻りに連絡を取り合っていた3協力会は、さらに連携を深めるため「えひめ国体民泊受入れ連絡会」を立ち上げました。当連絡会は「てっぺんとっちゃり隊！！ misima」をスローガンに掲げ、民泊成功に向け一致団結して取り組んでいます。

山口会長は「民泊協力会の垣根を越えて協力し合い、受け入れ準備を進めていきたい。しかし、過度なおもてなしはせず、アットホームな雰囲気作りを心がけ、選手たちをお迎えしたい」と、微笑みながら意気込んでいました。

出目えがお民泊協力会(出目／泉地区)



会長 松浦 智

出目二区の有志で立ち上げられた出目えがお民泊協力会。24の民泊協力会の中で唯一、民家を拠点として選手たちを出迎えます。

拠点となる民家は、えひめ国体終了までの間一棟全て貸し出しされ、集会所と同等の考え方で扱われています。しかし、そこには民家ならではのシャワー設備があったり、庭には鯉が泳ぐ池があったりと、まるで実家のような雰囲気。松浦会長は「選手たちがホッと一息つける場所になれば嬉しい」と期待を膨らませています。

年始に開催された「春の高校バレー」を観て、「さらにえひめ国体が楽しみになった」と話す松浦会長は、「私たちの役目は、選手が試合に集中できるよう、一丸となって全力でサポートすること。その中で、「また鬼北町に来たい」と感じてもらえれば、それ以上に喜ばしいことはない。また、私たちは一生に一度あるかないかの民泊体験を、子や孫へと語り継いでいくことが大切。この経験を活かし、次世代にいい礎を作りたい」と、熱く意気込んでいました。